

びわ湖の漁業

① 漁具の使い方やどんな魚がとれるのか予想する



※漁具やデジタル図鑑、魚の動画を使うことができる。
 ※魚の採捕体験やえり漁の展望を通しての導入も可

② 漁具の使い方・漁法・漁獲量について調べる



※びわ湖の漁業スライド（HP）を活用する。PCを活用して、グループごとに調べることも可能。

③ 調べたことから分かったこと考えたことを交流する。



④ びわ湖の漁業についてまとめる

終末の工夫

- * 「琵琶湖八珍」を紹介する
- * 漁師さんの願いを聞く
- * 水産課の方の話聞く

■ えり漁

湖岸から沖合に向かい矢印型に網を張り、湖岸によってきた魚を「つぼ」と呼ばれる部分に誘導する漁法 主な漁獲物→アユ

■ えびたつべ漁

エビを入れたえびたつべと呼ばれる籠をミチナワに枝状にむすびつけ湖底に沈めてエビをとる漁法

■ あゆ沖すくい網漁

琵琶湖のアユは6月頃になると湖面に「マキ」と呼ばれる群れをつくるようになる。そのマキをめがけて漁船を突進させ、漁船の先端に付けた網ですくい取る漁法

■ やな漁

主な漁獲物→アユ

■ 沖びき網漁

主な漁獲物→ゴリ（ヨシノボリの稚魚）ワカサギ、イサザ、スジエビ等

■ 貝びき網漁

主な漁獲物→セタシジミ

■ 小糸網漁（刺網漁）

水中にカーテンのように網を張り、その網に引っかかった魚をとる。

主な漁獲物→ニゴロブナ、ビワマス、アユ

問題 びわ湖の漁業で働く人たちは、魚をとるために、どのような工夫をしているのか。

予想 一度かごの中に入ると、出られなくなる。水中にカーテンのように張った網で魚を捕る。

調査 たつべ漁・えり漁・沖すくい網漁・小糸網漁など、魚の大きさや種類、特性に応じた漁法の工夫がある。

考察 びわ湖にすむ魚の生態を利用して、漁をしている。魚の捕りすぎを防いで、びわ湖の魚を減らさない工夫をしている。

まとめ 琵琶湖と共に生きる漁師さんは、限りある水産資源を守り、琵琶湖の自然を大切にしながら漁をしている。

つながり 食文化・魚の放流体験・魚の採捕体験

びわ湖の漁業 準備から後片付け

① 漁具の展示準備



※ひとつのコーナーとして、漁具を準備し、触れたり、調べたりすることも可。

② スライド資料の投影 ③ 調査用タブレット P C ④ 後片付け



F S # 5 パソコンにてデジタル図鑑の動画や学習 p p t を学習室モニターに投影する。



タブレット P C で漁法について調べる。



準備物

- ・ 漁具一式（小糸網、ふなたつべ、もんどり、えびたつべなど）
- ・ 漁法スライド資料(FS#5ノートパソコン)
- ・ 「漁獲量のパネル」（アユ、フナ、ニゴロブナ、ホンモロコ、セタシジミなど）
- ・ 漁師さんの話(FS#5ノートパソコン) ※インターネットより
- ・ タブレット P C × 班の数